

一般講演 I

座長：梶原 充（県立広島病院）

4 センノシド A・B が無効な症例に対する 麻子仁丸の有用性について

独立行政法人国立病院機構神戸医療センター 泌尿器科
大岡 均至

【目的】

センノシドA・B投与が無効であった高齢者慢性便秘症に対する、麻子仁丸の臨床効果につき検討する。

【対象と方法】

他院にて二次性便秘に因らない慢性便秘症の診断にて少なくとも3ヶ月以上センノシドA・B(プルゼニド®)3錠を与薬されても便秘が持続し、排便回数が2/週以下で、排便困難、残便感を伴う75歳以上の高齢者25例を対象とした(男性15例、女性10例、年齢75-84[79.0±0.53:中央値±標準誤差]歳)。これらの症例に対し、麻子仁丸7.5g分3食前を4週間投与し、その効果を判定した。検討項目は麻子仁丸投与前後での1週間当たりの排便回数・ Bristol 便形状スケール(Bristol Stool Form Scale: BSFS)・残便感VAS(なし:0、極めて高度:10)・腹部膨満感VAS・腹痛VAS・排便に関する総合的満足度(大変満足:0、極めて不満:10)・日常生活QOL VAS(大変満足:0、極めて不満:10)である。なお、本研究期間中は、各症例の食事・運動習慣などの生活リズムは可及的変更しないよう依頼した。

【結果】

麻子仁丸投与前の診察では、脈は細、腹力2-4/5程度、全症例が腹部膨満と腸管蠕動の不良を認め、軽度の皮膚乾燥を伴い血虚と判断された。安静時・収縮時の肛門括約筋のトーンスは正常～軽度低下であった。

麻子仁丸内服後、1週間当たりの排便回数は $2.0 \pm 0.1 \Rightarrow 3.1 \pm 0.1$ に改善した。BSFSは $1.0 \pm 0.1 \Rightarrow 3.0 \pm 0.1$ 、残便感VASは $8.0 \pm 0.2 \Rightarrow 1.0 \pm 0.2$ 、腹部膨満感VASは $8.0 \pm 0.2 \Rightarrow 2.0 \pm 0.2$ 、腹痛VASは $7.0 \pm 0.2 \Rightarrow 3.0 \pm 0.3$ 、排便総合的満足度は $9.0 \pm 0.2 \Rightarrow 1.0 \pm 0.2$ 、日常生活QOLは $8.0 \pm 0.2 \Rightarrow 2.0 \pm 0.3$ とすべての評価項目において有意に改善した(いずれの項目も $p < 0.0001$)。多変量解析にて麻子仁丸の臨床的有用性は年齢や性別を問わず有効であることも確認された($p < 0.0001$)。今回の検討では、麻子仁丸内服に伴うと判断される明らかな有害事象は認められなかった。

【考察】

高齢者の慢性便秘症の適切なマネジメントは極めて重要である。生活習慣の改善指導は最も重要であるが、薬物療法の併用が必要な場合も少なくない。麻子仁丸は高齢者向きの緩下剤であり、構成生薬は麻子仁5・大黃4・枳実2・杏仁2・厚朴2・芍薬2(単位g)となっている。麻子仁・枳実・杏仁は油分に富む種子で便軟化作用が期待され、大黃の大腸刺激作用や芍薬の補血・理気・腸管過緊張緩和作用、枳実と厚朴の下気散満作用も加わって緩下作用を発揮するものと考えられる。加えて、甘草を含有しないため偽アルドステロン症のリスクが少ないという利点も有する。今回の検討症例に認められる、腸管が過緊張気味と思われる高齢者気虚を合併する慢性便秘症症例には極めて有用な方剤と考えられる。